



動作動詞の中英対照研究：捏・?とPINCH

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-08-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮畑, 一範 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00009934

動作動詞の中英対照研究——捏・掐と PINCH

宮 畑 一 範

<kazm@lc.cias.osakafu-u.ac.jp>

本稿は、プロジェクトD (1999) の“捏”と“掐”の意味分析に基づき、近似する意味領域をもつ英語語彙と比較対照することを通して、その共通点や相違点を明らかにすることを試みる。¹ まず、指を使った2方向から力を加える行為という点でもっとも関連づけられる PINCH の意味を、*RHD*² で採用されている語義を活用し、主にその多義の構造を認知的な側面から考察することによって、明らかにする。次に、プロジェクトD (1999) の“捏”と“掐”の意味の展開と代表的なサンプルを整理しながら、特に PINCH との関係を中心に、それぞれに対応する英語表現の可能性を検討する。最後に、総括として、“捏”、“掐”と PINCH の対照比較を行い、その共通性と差異について検証する。

1. PINCH の多義の構造

*RHD*² の PINCH の定義を見ると、以下の30の語義（項目）が採用されている。まずはこれを手がかりにして、PINCH の複数の語義間の関係を考察していく。

1 この研究は、プロジェクトDにおける中英対照の見地から得られた成果のひとつである。プロジェクトDは、大阪市立大学の岩本真理氏主催で行われている研究プロジェクトで、現代中国語の動作動詞の意味・用法の分析を中心に扱っているが、その過程においては日本語や英語語彙との対照という側面からの議論もしばしば行われる。

本稿は、プロジェクトD (1999) の分析をふまえて準備した口頭発表をもとに、プロジェクトDにおいて中英対照の観点からさらに検討を加えた成果を取り入れ、加筆修正を行ったものである。プロジェクトのメンバーの皆さんからは様々な段階においていくつも貴重な意見やアドバイスを頂いた。また、対応する英語表現の可能性に関しては、筆者の15年来の友人である Arturo Guajardo 氏と、University of California, Davis の Debra Occhi 氏にインフォーマントとして御協力頂き、多くの有益なコメントを頂戴した。この場を借りて、深く御礼申し上げたい。

なお、本稿でもちいる用例（中国語）は、若干の追加を除き、全てプロジェクトD (1999) に基づいている。

pinch

v.t.

1. to squeeze or compress between the finger and thumb, the teeth, the jaws of an instrument, or the like.
2. to constrict or squeeze painfully, as a tight shoe does.
3. to cramp within narrow bounds or quarters.
4. to render (the face, body, etc.) unnaturally constricted or drawn, as pain or distress does.
5. *Hort.* to remove or shorten (buds or shoots) in order to produce a certain shape of the plant, improve the quality of the bloom or fruit, or increase the development of buds (often fol. by *out*, *off*, or *back*).
6. to affect with sharp discomfort or distress, as cold, hunger, or need does.
7. to straiten in means or circumstances.
8. to stint (a person, family, etc.) in allowance of money, food, or the like.
9. to hamper or inconvenience by the lack of something specified.
10. to stint the supply or amount of (a thing).
11. to put a pinch or small quantity of (a powder, spice, etc.) into something.
12. *Slang.* a. to steal. b. to arrest.
13. to roll or slide (a heavy object) with leverage from a pinch bar.
14. *Naut.* to sail (a ship) so close to the wind that the sails shake slightly and the speed is reduced.
15. *Horse Racing, Brit.* to press (a horse) to the point of exhaustion.

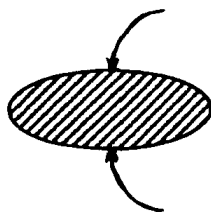
v.i.

16. to exert a sharp or painful constricting force.
17. to cause sharp discomfort or distress.
18. to economize unduly; stint oneself.
19. *Mining.* (of a vein of ore or the like) a. to diminish. b. to diminish to nothing (sometimes fol. by *out*).
20. *Naut.* to trim a sail too flat when sailing to windward.
21. pinch pennies, to stint on or be frugal or economical with expenditures; economize.

n.

22. the act of pinching; nip; squeeze.
23. as much of anything as can be taken up between the finger and thumb.
24. a very small quantity of anything.
25. sharp or painful stress, as of hunger, need, or any trying circumstances.
26. a situation or time of special stress, esp. an emergency.
27. See pinch bar.
28. *Slang.* a raid or an arrest.
29. *Slang.* a theft.
30. with a pinch of salt. See grain (def. 22).

PINCH のもっとも具体的で中心的な意味は、語義 1 の説明の中でも「親指と対向する 1 指をもちいて 2 方向から加圧する」行為であると考えられる。この「対向する 1 指」は、*COBUILD* の定義 (squeeze it [something] quickly between your thumb and first finger) にもあるように、通例、親指に一番近い人差し指として理解される。² 「親指と対向する 1 指」というのは、「歯」や「道具の先の 2 つのかみあわせ部分」など、「対象物をはさみこむ対向する 2 つのもの」一般へと拡張する。結果として、PINCH の全体像として重要なのは、対象物を 2 方向からはさみ加圧するイメージである、ということになる。これをスキーマとして表示すると、以下のようなになる。³



2 典型度の問題で、それ以外の 1 指をもちいた行為でも、PINCH によってカバーは可能である。また、親指と対向する複数本の指 (pinch between the thumb and fingers) というのも許容されうるが、複数本の対向指が一体化して認識されている必要があり、また、機能面から言っても、親指とそれに近い 2 本の指 (人差し指と中指) をもちいているという理解が普通である。対向指 4 本全てが関与している (と認識される) と手全体の行為として了解されるため、PINCH としての違和感が大きくなる。PINCH の場合、あくまでも指先にスコープが限定されていると考えられる。

3 ちなみに、pinchbottle (胴部分でへこんだ酒瓶) や pinch pleat (つまんだような形状でつけられたカーテンのひだ) という表現は、対象物の変形後の形状 (下図) との類似から生じるものである。



対象物に対する加圧の程度は、*pinch gently/tightly* と問題なく結合することから、基本的には中立的であると考えられる。しかし、特に語義2、3、7、8、10などの展開を見ると、強い加圧により引き起こされる苦痛や圧迫感というのが、意味拡張の重要な要因となっていることがわかる。

語義2は、2方向からはさみこみによって生じる苦痛という身体的な感覚に焦点を置いたものである、ととらえることができる。語義4および6は、さらにこの苦痛により引き起こされる結果（変化）に意味が展開したものである。

一方、語義3、7、8、10の制限、限定、制約の意味合いは、強い加圧により生じる空間的、心理的圧迫感を接点にした意味拡張である、と位置づけることができる。語義9は、特に語義7、8、10の結果引き起こされる、欠乏によって自由がきかない状態に重点を置いたものである。

このような2方向からはさみこみに付随する感覚を契機に展開する方向とは別に、PINCHは、通例、副詞や前置詞句を伴って、具体的な行為の結果何らかの状態を生じさせるという状況も表現しうる。基本的には、PINCH自体は2方向からはさみこむ行為を表し、小辞部分はその結果生じる変化を担っていると考えられるが、小辞を伴わず特定の変化を表すことも可能で（例えば、語義11）、行為の結果付随する変化も射程に含んでいる場合もある。

語義5は、対象物を2方向からはさみこんだ結果、分断するという変化を表すものである。この定義では、園芸用語として限定されているが、*pinch a cigarette out*（たばこを2指でつまんで、先端部分を分断することによって、たばこの火を消す）というような一般的な使い方も可能である。

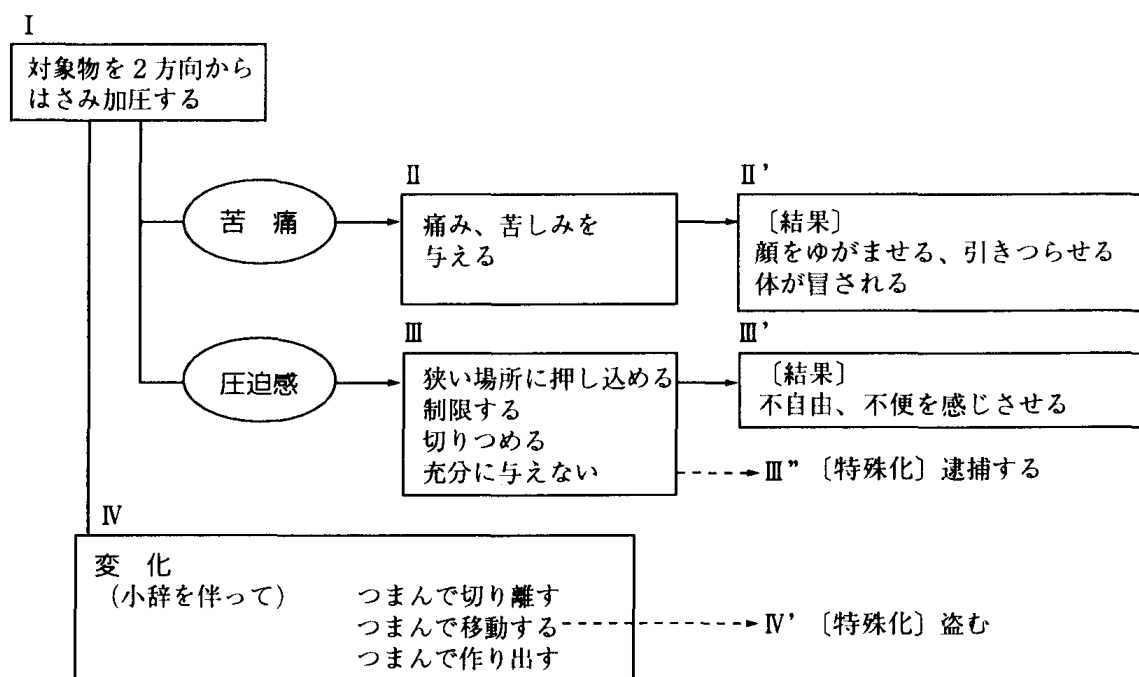
語義11では、2方向からはさみこんだ対象物を移動させるという変化が表されている。ここでは、特に日常レベルで頻出する調理時の特定の方向への移動行為（調味料をつまんで入れる）が取り上げられているが、*pinch the bloody handkerchief away* や *pinch a mouse out of the case* のように、小辞と共にもちいることによって移動の方向を自由に明示することができる。

また、ここで参考にしている *RHD*² の定義には見られないが、*pinch the clay into the shape of lion* のように、新たな形を産出する文脈においても使用することが可能である。

語義12は、a.、b.共、いずれも類から種への意味変化として位置づけることができる。すなわち、a. (盗む) は「つまんで移動する」、b. (逮捕する) は「(行動などを) 制約する」という一般的な範疇から特殊化したものである、と考えられる。

語義13、14、15は、PINCHの全体像の中ではかなり周辺的な位置を占められると思われるが、いずれも PINCH の多義構造における重要な要因と密接に関連していると考えられる。語義13は、pinch bar をもちいるというメトニミーであるが、重いものを持ち上げたり、動かしたりする際に目一杯力を加えるイメージが、PINCHの「苦痛」や「圧迫感」を伴う程度の強い加圧と重なり合うように思われる。帆船用語としてもちいられる語義14も、帆の揺れを軽くし、船の速度を抑制する様が、PINCHのもつ「圧迫感」と呼応するものと考えられることができる。語義15は、競馬用語で、しかもイギリス英語という限定がつくが、強制的に馬を極限まで走らせるところが、同様に、PINCHの「圧迫感」と関わっていると見なすことができる。

以上の考察に基づいて、PINCHの多義構造の主要部分を図示すると、次のようにまとめることができる。



自動詞、名詞として区別されている語義16~30も、基本的にはこの図式の中に位置づけることができる。

語義16は、Iの基本義の加圧の力に、特定の意図としてIIの意味を組み込んだものと考えることができる。語義17は、まさしくIIの領域である。語義18は、IIIの中でも、とりわけ金銭的、経済的な文脈に特化したものにとらえることができる。語義（慣用表現）21も同様である。語義19は、鉱業用語として採用されているが、鉱脈が水の流れのメタファーであり、それを指ではさんで加圧すると流れが悪くなる／止まる、という思考（アナロジー）が背後に作用している。語義20は、語義14と関連する。

名詞としてのPINCHの意味を観察すると、PINCHの概念化の中で特に認識上重要な要因が何であるのかが反映されていて興味深い。まず第1に、基本義である「対象物を2方向からはさみ加圧する」という行為そのもの（語義22）である。第2に、この基本義の（もっとも具体的な行為である「親指と対向する1指によってはさまれる」）対象物である（語義23）。これは、メトニミーの作用により、その分量という意味（語義24）へと容易に展開する。そして、第3に、PINCHの意味拡張の動機づけとなる「苦痛」や「圧迫感」およびそれらを生じさせる状況や時（語義25、26）である。

残る4つは、特定の語義とおのおの関連づけられる。語義27は、メトニミーにより、pinch barの意味を担っている。また、語義28はIII”と、語義29は、IV’とそれぞれ対応している。語義（慣用表現）30は、語義24をもとにしたメタファーである。

2. 捏・掐と対応する英語表現

2.1. 捏の主な用例と対応する英語表現

“捏”の基本動作は、親指と対向する他の指との間で対象物をはさみ、保持することである。保持の状態から、加圧の程度が強くなり、対象物が変形したり、新たな形状が創出される場合もある。

「保持」の意味での“捏”のうち、粉末や粒状のもの（粉薬や種など）を対象物とする動作〔捏了点儿药末儿（粉薬を指でつまんで出した）／捏着种子（種をつまんでいる）〕は、PINCHによってカバーされる。ただし、典型

的には親指と人差し指の2本によってはさまれる場合のみであり、複数本の対向指が関与する場合でも、PINCH で表現されうるのは、人差し指と中指くらいまでである。“捏”は数量詞としてもちいることは極めてまれだが、PINCHの方は、take a **pinch** of medical powder/seeds という使用も自然である。また、指先の動きにフォーカスを当ててではなく、より大きなスコープで対象物に対する動作をとらえると、**pick up** や、さらに、その行為に選択の意図が含まれる場合には **pick out/off** という表現が可能である。

それ以外のものを対象物として“捏”する動作は、基本的にはもっとも一般的な HOLD をもちいるのが妥当である。その他のバリエーションは、問題となる行為に関連する特定の側面を強調するため、原語の意味とはかなりずれてしまう恐れがある。

酒碗（取っ手のないカップ）や箸の場合 [捏着酒碗（酒碗をはさみ持っている）／捏住筷子（箸をしっかりとにぎる）]、HOLD の他に、GRASP や GRIP という選択も好まれるが、このしっかりとにぎる系の動詞とのコロケーションは、英米人が普段持ち慣れない対象物ゆえに、落とさないようにぎゅっと力を加えているという意識を反映しているように思われる。CLUTCH もこれらの対象物と結びつきやすい動詞であるが、不安感などから力を込めて必死になって対象物をつかむという意味合いから、カップがうまく保持できていない、または、箸をうまく使って食べることができていない、という含意が生じる。対象物の保持という側面の中でも、とりわけ加力による（直線的な）圧迫感に重点を置くと SQUEEZE、2方向からのはさみ込みという部分に着目すると PINCH も可能である。ただし、箸を使っている場面で SQUEEZE や PINCH がもちいられる場合、箸そのものをつかんでいることを描写するのではなく、一般的に箸を使って何かをはさもうとしている行為を描写する手段として使用される。⁴ また、カップの場合、小指（と薬指）を底部に軽く添え

4 おもしろいことに、“捏”は、ピンセットや毛抜きのような形状の道具を使って何かをはさむ行為を描写するのにもちいることができるのに、箸を使って何かをはさむ行為を表現するのにはもちいることができない。おそらく、箸の場合、2本の（別々の）細木から構成されるため、V字タイプのはさみこみという“捏”のイメージスキーマに合致しないからだと考えられる。

るような形で、手全体で包み込むように保持している様子が意識されると、CRADLE という表現も可能である。

紙片を指先でぎゅっと押さえて持っている“捏” [捏着一张车票 (手に乗車券を持っている)] は、HOLD以外に、加圧に力点を置く PRESS や SQUEEZE、2指によるはさみこみを表す PINCH によって表現しうる。

紙片を手の中にしっかりと持つ (4指とてのひらの間で保持する) “捏” [拿到票就紧紧捏在手里 (チケットをもらうと手にしっかりと持つ)] は、同じく HOLD の他、手の中に包み込むという感じでは CRADLE、あるいは、説明的に **tuck into the palm**、また、手放さないよう必死になってつかんでいるという様子であれば、CLUTCH を使ってカバーできる。4指とてのひらの間での保持では、PINCH とは言えない。

“捏” が「保持」の意味から比喩的に「管理権や権限を掌握する」意に拡大するように [地方政府当然牢牢地捏在手里 (地方政府が利権をしっかりとにぎっている)]、しっかりとぎる系の HOLD や GRASP、GRIP、CLUTCH などはいずれも手中におさめるという意味で同様の意味拡張を見せる。ただし、英語の方は“捏”とは違い、**have a hold on/over** ~ や **get in(to) the grasp/grip/clutches of** ~ というように、名詞として「支配、統制」の意味で使うことも可能である。ちなみに、PINCH は比喩的にこのような展開を見せないが、ひとつには PINCH が手全体をスコープに入れた行為ではなく、あくまでも2方向の指先による把捉行為であるため、そしてさらに、その行為により対象物に生じる苦痛や圧迫感という側面に重点を置くからであると考えられる。

「保持」から「加圧」に展開した“捏”では、問題となる行為のどの側面に着目するかによって、選択される表現にかなりの幅 (従って、意味的にずれ) が出てくる。実などの熟し具合を確認するために押してみたり、乳ガンのしこりを触って確認するような“捏” [捏一捏山芋 (焼き芋をちょっと押してみる) / 捏两只乳房 (両方の乳房を触る)] は、通例は、PRESS や SQUEEZE、2指によって行為を行う場合は、PINCH によって対応可能である。乳ガンのしこりを確認する動作は、行為そのものよりも、その動作の目的に着目すれば、EXAMINE や PALPATE というような選択肢も考えられる。また、痛みや凝りを取り除くためにもんだりほぐしたりというような機能面が問題となるよう

な文脈 [捏大腿 (太ももをもむ)] では、MASSAGEによってカバーされることもある。

対象物をぺしゃんこにする“捏” [捏瘪了果汁盒 (ジュースのパックをぐっと力を入れて押しへしゃげた) / 捏扁了泥人 (泥人形をぺしゃんこにした)] は、CRUSH や FLATTEN によって表現される。ジュースの紙パックのような場合は、液体が飛び散る際の聴覚イメージに力点を置き、SQUISH とも表せる。もちろん、これらの動詞は、対象物のつかみ方そのものを描写するものではなく、対象物に対する作用 (対象物にもたらされる変化) を表現するにすぎない。この意味から比喩的に拡張した“捏” [杀个人就像捏死一只蚂蚁 (人を殺すことをあたかもアリをひねりつぶすかのように行う)] も同様に、CRUSH や KILL を使って表現せざるをえない。

「加圧」からさらに「産出」に展開する“捏”は、その行為が2指により行われている場合は、PINCH をもちいて表現可能である。しかし、PINCH 単独ではあくまでも「つまむ」意味でしかなく、“捏”のように [捏饺子 (餃子を作る) / 捏泥人 (泥人形を作る)]、その目的語が「動作の結果生じるもの」として理解されることはない。pinch the dumpling の場合、例えば、作る過程で皮の端をつまんで押さえる動作そのもの (pinch the two ends of the dumpling) の描写となる。泥人形の場合も同様に、pinch the clay figurine では、あらかじめできあがっている泥人形 (の一部) を2指によってはさんでいるという行為を表現するだけである。⁵ 前置詞句の助けを借りれば、粘土をつまんで人形を作り出すという意を表すことは可能である (pinch clay into the shape of man)。「産出」という意味では、MAKE や SHAPE を使うのが自然である。

“捏”は、この「産出」の意から比喩的に「捏造」の意味へと拡張しうる [给他捏了个“托派”罪名 (彼にトロツキストの罪名を着せた)] が、もちろん PINCH ではこれに対応できない。英語では、文脈に即した作る系の表現 (MAKE/FRAME UP、FABRICATE、CONCOCT など) をもちいる必要がある。

5 この点、“掐”と振る舞い方が似ている (プロジェクトD (1999:31))。

2.2. 拵の主な用例と対応する英語表現

“拵”の基本動作は、手によって円環を作るように対象物をつかむことである。片手で行う場合は、親指とその他の指先に力を入れて円環状をなし、対象物を加圧する。この加圧が極限にまでいたると分断を意味する。まれに指同士を合わせる行為で、対象物が存在しない場合もある。両手で行う場合は、親指と残りの4指を対象物の周囲に回して捕捉し、加圧する行為を表す。

「片手・加圧」の中でも、鼻の下の溝をつまむ“拵”〔拵人中（鼻の下の溝をつまむ）〕は、PINCH を使って表現するのがもっともふさわしい。はさむだけでなく、回転が加わると（「つねる」動作）、**pinch and twist** と回転部分の動作は別の動詞が担うことになる。回転を含まないという点においても、PINCH と“拵”とは共通する。また、2指を使った動作という側面ではなく、強い圧迫を加えるという部分に力点を置けば、SQUEEZE とも表現できる。

蛇を対象とした場合〔拵蛇的的身子（蛇の体をつかむ）〕、その行為が親指と人差し指ではさんで蛇の動きを制御することを目的としている場合にはPINCH が可能である。はさみ方が2指ではなく、親指と対向4指によるはさみこみ行為となると、PINCH ではなく、SQUEEZE によってカバーされることになる。また、目的が首を絞めて蛇を殺すことにある場合には、目的を明示する CHOKE や STRANGLE が選択される。

人や人の体の一部を対象にした“拵”〔拵了人（人をひつつかんだ）〕は、英語では描写される動作が手全体で行われる「つかむ」行為として認識されるため、GRASP、CLUTCH、SQUEEZEなどが候補としてあげられる。局所的に2指により加圧する（行為が意識される）場合は、PINCH が可能である。

「加圧」から「分断」にいたる“拵”は、その行為が2指によってなされる場合は、PINCHによってカバーされる。花をつみ取る“拵”〔拵了一朵花（花を1つつみ取った）〕は、**pinch off a flower** で表される。“拵”同様、動作にひねりは含まれない。指先ではさんでおちっと切断する行為である。たばこの火を消す“拵”〔拵了烟（たばこを消した）〕も、**pinch out the cigarette**、あるいは、**pinch off the head of the cigarette** という表現で表すことができる。SQUEEZE をもちいることも可能だが、親指と人差し指を使って、という描写が希薄になる。

それ以外の分断行為には、PINCH は普通もちいられない。電線を切断する行為 [掐了电线 (電線を切った)] を描写するのは、CUT または聴覚イメージに重点を置いた SNIP が一般的である。「電話を切る」(自分で通話を切る) 意で比喩的にもちいられる“掐” [掐断电话 (電話を切る)] は、HANG UP や RING OFF、TERMINATE、DISCONNECT などが対応する。CUT をもちいた表現 (cut the line や cut someone off など) では、通例、何かあるいは誰かによって伝送が (時に妨害目的で) 中断されることを含意する。同じく比喩的に「酸素の流れを切る」“掐” [掐断氧气 (酸素を切る)] は、CUT (OFF)、STOP などによって表現される。

「片手・対象なし」の“掐”はかなり特殊な (いずれも文化に深く依存した) もので、英語では、代替表現または説明的な表現にならざるをえない。“掐算” (指で数える) は、指使いの描写に正確さを欠くが、count by touching thumb to fingers、“掐诀” (印を結ぶ) は、make a circle あるいは make the OK sign くらいであろう。2指による動作であっても、対象物がないと、PINCH とは関連づけられない。

「両手・加圧」の首を絞める“掐” [掐脖子 (首を絞める)] は、STRANGLE や CHOKE が対応する。ただし、英語では指や手の使い方に関しては特に何も描写していない。“把《探索》彻底掐掉了” (徹底的に「探索」をつぶした) のような比喩的な転用例に関しては、CRUSH、KILL、SWEEP/CLEAR/ROOT AWAY など、文脈やニュアンスに即した表現の選択が必要となる。

2.3. 捏・掐と英語表現の対応表

第2節での考察のまとめとして、“捏”、“掐”の代表的な用例とそれに対応する英語表現の一覧を提示しておく。英語表現は、各ブロックでインデントを施した表現 (のグループ) ほど、原語の意味合いとのずれが大きいことを示している。

	捏	対応する英語表現
【保持】	捏了点儿药末儿 (粉薬を指でつまんで出した) / 捏着种子 (種をつまんでいる)	PINCH、TAKE A PINCH PICK UP PICK OUT/OFF
	捏着酒碗 (酒碗をはさみ持っている) / 捏住筷子 (箸をしっかりとにぎる)	HOLD GRASP、GRIP、CLUTCH SQUEEZE PINCH
	捏着一张车票 (手に乗車券を持っている)	HOLD PRESS、SQUEEZE PINCH
	拿到票就紧紧捏在手里 (チケットをもらうと手にしっかりと持つ)	HOLD CRADLE CLUTCH TUCK (INTO THE PALM)
	<メタファー> 地方政府当然牢牢地捏在手里 (地方政府が利権をしっかりとにぎっている)	HOLD、GRASP、GRIP、CLUTCH
【保持⇒加圧】	捏一捏山芋 (焼き芋をちょっと押してみる)	PRESS、SQUEEZE PINCH
	捏两只乳房 (両方の乳房を触る)	PRESS、SQUEEZE PINCH EXAMINE、PALPATE
	捏大腿 (太ももをもむ)	PRESS、SQUEEZE PINCH MASSAGE
	捏瘪了果汁盒 (ジュースのパックをぐっと力を入れて押しへしゃげた) / 捏扁了泥人 (泥人形をぺしゃんこにした)	CRUSH、FLATTEN
	<メタファー> 杀个人就像捏死一只蚂蚁 (人を殺すことをあたかもアリをひねりつぶすかのように行う)	CRUSH、KILL
【保持⇒加圧⇒産出】	捏饺子 (餃子を作る)	MAKE PINCH
	捏泥人 (泥人形を作る)	MAKE、SHAPE PINCH (clay into the shape of man)
	<メタファー> 给他捏了个“托派”罪名 (彼にトロツキストの罪名を着せた)	MAKE/FRAME UP FABRICATE、CONCOCT

掐		対応する英語表現
【片手・加圧】	掐人中（鼻の下の溝をつまむ）	PINCH SQUEEZE
	掐蛇的身子（蛇の体をつかむ）	PINCH SQUEEZE CHOKE、STRANGLE
	掐了人（人をひつつかんだ）	GRASP、CLUTCH SQUEEZE PINCH
【片手・加圧⇨ 分断】	掐了一朵花（花を1つつみ 取った）／掐了烟（たばこを 消した）	PINCH OFF/OUT
	掐了电线（電線を切った）	CUT (OFF)、SNIP
	<メタファー> 掐断电话（電話を切る）	HANG UP、RING OFF TERMINATE、DISCONNECT
	掐断氧气（酸素を切る）	CUT (OFF)、STOP
【片手・対象なし】	掐算（指で数える）	count by touching thumb to fingers
	掐诀（印を結ぶ）	make a circle/the OK sign
【両手・加圧】	掐脖子（首を絞める）	CHOKE、STRANGLE
	<メタファー> 把《探索》彻底掐掉了（徹底的に『探索』をつぶした）	CRUSH、KILL SWEEP/CLEAR/ROOT AWAY

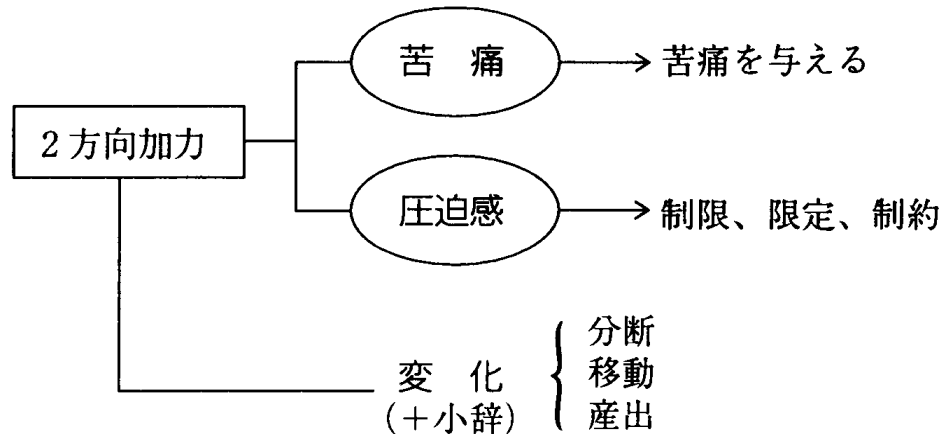
3. 捏・掐とPINCH

最後に、“捏”、“掐”とPINCHの全体像を比較し、その対応具合を総括しておくことにする。

PINCHの基本義は、対象物に対して2方向から力を加える動作ととらえることができる。2方向からというのは、人間が主体の行為の場合、通例、親指と対向する1指（普通は人差し指）による加力であり、その他、口や道具（のはさみ合わせ部分）に拡張可能である。この基本義を中心に、PINCHは大きく2つの意味展開のパターンを示す。ひとつは、行為に伴う（肉体的・精神的）苦痛や圧迫感という要因をもとに拡張する方向である。もうひとつは、基本

的には、副詞や前置詞句と共に起して、基本義の行為の結果、どのような変化を生じるかを表すパターンで、分断、移動、産出を偏りなくカバーする。

PINCH



一方、“捏”と“掐”は、2方向の（親指と対向指を使った）加力という点では共通するが、加力の様態（はさみ方）の違い——“捏”はピンセット型（V字タイプ）、“掐”は円環完成型（O字タイプ）——が意味の展開の相違に反映され、カバーする範囲が基本的に分化している。また、いずれも、「多義」が連続するひとつの動作のシナリオの中途過程（段階）として展開しており、さらにその各々がまた意味拡張の核として機能している。

捏：2方向加力（V字） 保持⇒加圧⇒産出

掐：2方向加力（O字） 加圧⇒分断

基本的には、“捏”、“掐”で英語の PINCH に対応するのは、2指（親指と対向する1指〔通例、人差し指〕）によるはさみこみ行為そのものと、その様式での分断と産出の一部に限られる。具体的な動作としては近似しているにもかかわらず、全体像としてはこのように大きく異なるのは、両者の意味拡張の違い、すなわち、その背後に潜む動作に対する認識（重点の置き方）の相違によるものと考えられる。

参 考 文 献

- Chinese-English Dictionary*. 《中英辞典（汉英词典）》1979. 香港：商務印書館.
- Collins COBUILD English Language Dictionary*. 1987. London: Collins .
[COBUILD]
- Comprehensive Chinese-English Dictionary*. 《汉英综合辞典》1991. 上海：上海
外语教育出版社.
- プロジェクトD. 1999. 「中国語動作動詞の研究 (1) 捏・掐」『中国語研究』
第41号, pp. 18-40. 東京：白帝社.
- Random House Unabridged Dictionary, Second Edition*. 1987. New York: Random
House. [RHD²]